



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年7月1日

7月号・第174号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



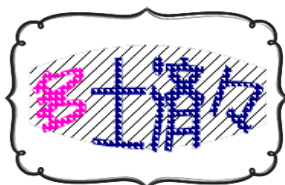
椎茸ホダ木の本伏せ(協働作業)

Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

多土済々	1	青垣春秋	12
Monthly Repo.ならやま	2	俳句百景	13
里山の今	3・4・5	癒しの散歩道&ならやま茶論	14
追憶、字遊字感	6	ならやまプロジェクト	15
5月・歴史研修会・報告	7	行事案内 part1	16
6月・自然教室・報告	8	行事案内 part2	17
6月・月例研修会(歴史)・報告	9	行事案内 part3、仲間入りしました	18
田植え報告、「鳥」シリーズ	10	幹事会報告・編集後記	19
やさしい病害虫講座	11		



四国お遍路の先達

森 英雄 さん

顧問 川井 秀夫

2008年 春。生駒棚田クラブの活動現場で突然お声が掛かる。白いお髭同士の一期一会の初対面の瞬間となり、シニア14期を修了されての入会でした。当時、棚田は既に独立運営が進み、私も後事をD氏に委ねた時期で「奈良にも良い所がありますよ」とお勧めし、「ならやま」に定着して頂きました。



当会では、社会現象とまで言われた「ナラ枯れ」の防護対策に腐心して頂き、行政との森林再生の諸施策にも牽引力を発揮願いました。残念ながら「ナラ枯れ」に対する決定的な処方箋は専門家もお手上げのまま終結致しましたが、会の財産として無駄ではなかったと思っております。

ご出身は名古屋。高校生の時に伊勢湾台風(死者5000人)を真っ只中で体験され、私も当時社会人として直接凄惨な現場を見ただけに因縁話に驚かされました。

後年、大阪の大手ガス会社に就職され、技術・研究の道を全うされた様です。人生観に造詣の深い方で、友人の勧めで特別な動機もなく四国八十八ヶ所のお遍路を八回に及ぶ満願を成就され「先達」の称号を取得。自然に対する畏敬と感謝の思いで果てない「歩き」を今なお続けておられます。

彼とはよく酒席を共に他愛ない話をしますが、何か一本、筋の通った気骨を感じております。遍路道で不思議な体験話を伺いました。霧深い人っ気の無い林道で網代笠を被ったお坊さんを遠目に見たと。幻覚というか神秘体験だったと未だに不可解な遭遇と述懐されておられます。精神世界からの弘法大師の御影ではなかったかと…。



ご趣味はコーラスの最低音域のバスでご活躍の由。酒席では興に乗ると森節をお聞きする事がしばしばです。今年は当会も15周年の節目を迎えました。鈴木新体制の片腕として大いに指導力を発揮していただきたいと期待を寄せております。

また酒席でのパフォーマンスも楽しみのひとつです。好漢、無理をせずお元気で。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

5月26日(木) 活動 曇り 64名

午後からは雨、との予報だったが、幸いにも雨にあわず、最後まで活動が出来た。打ち合わせでは、新年度最初の活動となったため、先日行われた総会関係の連絡や役員との紹介が主なもので、いよいよ新しい年度が始まったという感を改めて強くする。里山Gは第5地区の松の処理に、エコGは夏野菜の収穫や支柱たてを中心に取り組む。また景観Gは彩りの森の草刈りのほか、ビオ班は池の周りの草刈り、花班は菜の花の撤収のほかパト班も第2コースの巡回等の活動を行う。

6月2日(木) 活動 晴れ 73名

梅雨間近とは思われないさわやかな気候に恵まれ、多くの会員が活動に参加。朝一番にシイタケのほだ木の本ふせ作業を協働作業で行った。その後、里山Gの里山林整備をはじめとして、エコGの来週実施予定の田植えに向けての諸準備、そして景観Gの草刈りやビオ班の水生生物調査が行われる。また花班は植物の植え替え、パト班のミーティングと巡回等、貴重な時間を十分活用する。打ち合わせでは今年度策定された当会のキャッチフレーズとロゴマークの紹介が行われる。今年一年も充実した活動にしていきたいものだ。

6月9日(木) 活動 曇り 58プラス25名

恒例の田植え。田植え日和の中で、今年は佐保台小5年児童と当会会員との合同の田植えになったが、児童の興奮ぶりにはびっくり。10月の収穫期が楽しみである。打ち合わせでは、田植えの段取りのほか、6月、7月実施予定の諸行事への参加要請が行われる。また、マムシやスズメバチが姿を見せたとの情報も寄せられ、注意を喚起する。各Gでは田植えを中心に、枯れ木の処理や畑の整地、花の植え替えや草刈り、そして観察路の笹刈り等に貴重な一日を費やす。昼食時や終礼時には柿の葉すしや草もちが供せられ、うれしいひと時となった。有難い事である。また、梅の実が沢山収穫できた。

6月16日(木) 活動 曇り後雨 38名

午前中は天気ももって、なんとか作業も出来るのではないかと、といった淡い期待も裏切られ、10時過ぎには雨が降り出した。そのため、午前中の作業もそこそこに切り上げ、12時前には作業終了。また、参加者も少なく、G同士で協力しながら作業を進めたところもあった。7月のイベントの自然工作の準備に励むグループ、観察路の草刈りに汗を流すグループといろいろだったが、それでも十分成果も上がったようである。雨の中、近大から北川先生や学生が来訪。池の中に貝を放す作業を行った。順調に生育することを願いたい。



6月2日
一斉作業の様子



里山グループだより

平田範光

6月の協働作業でほだ木の本伏せ、天地返しをしてもらいましたので「シイタケ栽培」について調べたことを書いてみます。

1. 原木選び

(a) 発生の良い樹種：クヌギ・ナラ類
栽培しやすく、寿命が長く収量が多い。

(b) シダ・シイ・クリ・カシ類

きのこ発生は早い、ほだ木の寿命が短い。

2. 原木の伐採

- ・紅葉時期(11月)～翌春にかけて伐採し、枝葉をつけたまま20～60日位乾燥させる。
- ・接種の直前に玉切りするのが理想的である。
- ・シイタケ菌は、生きている原木には活着しない。
- ・原木は栽培に都合の良い長さ(0.8～1.2m)に切る。ならやまでは、1.0mにしています。

3. 接種

- ・シイタケ菌の接種は、1月から3月下旬までに行う。
接種の時には、種駒の先に空間を作る必要があるので、種駒の長さより少し深めの穴をあける。
- ・あける穴の数は、原木直径の1.5～2倍が目安。(例えば、直径10cmなら15～20個・直径16cmなら24～32個)

4. 仮伏せ

種駒を原木に完全に活着させるために、接種後直ちに仮伏せする。

方法は、「たて伏せ」「よこ伏せ」「地伏せ」等があります。今年は、井桁伏せをしました。

冬の乾燥と低温から種駒を守りほだ木に早く活着させる作業で、最も重要な作業です。

5. 本伏せ

シイタケ菌を櫓木内に蔓延させるのが本伏せ。気温が上昇し、降雨が多く湿度が高くなる5月頃に行う。櫓木を立てる時は、太い方を上にする。

6. 天地返し

菌糸の蔓延を均一にすることと、木口から雑菌の侵入を防ぐために行う作業。

**エコファームだより**

田中暉英

早いもので5月上旬に植えた夏野菜が、グングン成長しています。

ナス、トマト、ピーマン、トウガラシ、カボチャ等々の果菜類が主役です。これ等を管理する作業が、6月から始まっており今月も続きます。適期にこれをやるかやらないかで収穫量に大きな差が出ます。

整枝(摘芯,わき芽かき)、支柱立て、誘引。まだあります。除草、中耕、土寄せ、追肥。

摘芯は主茎や側枝の先端芽を摘み取ること。トウガラシ類は主茎先端を摘み取り、上への成長を止めます。枝の数が横に広がり収穫量を増やします。トマトは主茎の成長をよくして実を充実させたいので、茎と葉の間のわき芽を摘み取り、管理できる高さまで伸びたら摘芯をします。

果菜類は支柱をしてやらないと果実の重みによって枝が折れたり、倒れたりします。ヒモなどを使って茎や枝を支柱に固定します。生育の妨げになるのを防ぐため、ヒモは8の字に交差させてゆとりを作っておくのがポイントです。この時に日当たりと風通しを良くするため枝葉も整理します。これで畝間を歩き易くなり管理作業や収穫作業の効率も上がるのです。

除草のポイント草を生やさないために種ができる前に除草することです。イネ科雑草の多くの種は6年～8年程度の寿命があります。追肥は1番最初の実が成るころから、作物の生育を見て途中で何回かやります。一度に多くやればよいというものではありません。根元でなく根の伸びている先端に発酵鶏糞、ボカシ肥料等の即効性のある肥料を浅目に土と混ぜ合わせて施してやります。

土寄せは作物の根元に土を寄せて被せること。根の露出を防ぎ、風雨で倒れないように根をしっかり張らせます。中耕は畝の外側の固くなった土を根が傷つかないように浅く耕します。水や肥料が土中にしみこみ易くなるのです。また通気性が良くなり根が酸素を吸収し易くなります。土寄せと中耕は、除草や追肥と一緒にするのが効率的です。

景観グループだより

竹本雅昭

***今年もようこそ**

パシャパシャ、何か、と音のする方を見ると、頭を濁り水に、赤橙の足で水を掻き、体は尾を上にして垂直に立て、休みなく同じ動きをしている。食事中なのか水中偵察なのか、岸で膝小僧かかえて見てもさっぱり分からない。

葦、蒲がグングン伸び、ビオトープの板道を両側から覆いかぶせて水辺の観を發揮している。

カルガモもタイミングよしと見ての飛来か。毎年産卵する一坪程の丸い島では、目隠しとなる草丈が不十分で、危険では無いかと多少心配です。横の田では苗が涼しげに緑の直線を揺らし、これから水生生物も多く活躍するだろう。



カルガモよ何が好物なんだ、カエルかザリガニか、ドジョウはどうだ。取れたらごちそうしてやるぞ。

カルガモよ、今年は是非雛の行列を見せておくれ、約束だぞ。どうか彼等の無事をと願わずにはおられない。

その池の東側にはタナゴ池と花壇を挟んでドジョウ池がある。ドジョウ池は今冬完成したが果たしてその進捗はどうでしょう。3m x 4mの広さ、水深50cmが7割を占める。この深さがあれば鳥も足が底まで届かない。只ヤゴやカエルそれに嫌なザリガニ対策として、周囲に杭打ちし全体をスッポリと被い、裾にはより細かい目のネットで囲んだ。

ところが、カエルはその鼻先さえ入れればスポットと抜けて池へポチャン。彼の目出はこっちを見て、ケロケロッと・・・全く。ザリガニに至っては池作りから侵入しており、絶滅はお手上げの態である。6～7月はドジョウの産卵期である。東池や水路で捕獲したものを随分入居させたが、網で掬ってみてもオタマジャクシ、なぜかタナゴも入っていたりして一向にオチオボグチさんの姿が見られません。



パトロール班だより

木村宥子

***ササ**

梅雨に入り、山の中も笹が生い茂ってきました。ほとんど道が隠れてしまっているところもあります。コシダの辻からオオタカの辻への尾根道もそうで、笹をかき分けて進むとマムシが居そうぞち



よっと恐ろしい、という季節になりました。パトロール班では笹を刈ってコース

を整える予定を
(ササを刈りました)
組み、景観グループの草刈り隊の皆さんの応援も頂き、一部刈り始めました。

また、大きな枯れ枝が木の高い枝に引っかかっている所があるので、通る人に注意をしていただくよう、「頭上注意」の札をつけることにしました。歩くとき、特に風のある時は頭上にも注意を払ってください。

山の中の歩き難いところの階段は、次々に木が腐ったりして傷んでいきます。このような所は、ほとんど菊川さんを中心に修理されています。

この仕事は階段用の材料の運び上げが、一番の問題です。木を倒した時に出る適当な太さの木を確保しておいて



運び上げるのですが、かなり重いです。時々皆で数本ずつ担いで運び上げ、階段の近くに貯めています。

(階段用の木をストック)

また、滑りやすい難所(?)にはトラロープも張り、コースは分かり易く歩き易くなっています。ぜひ季節ごとに歩いてみてください。

今は亡きパトロール班のTさんが作った丸太の道標も、ゆっくりと土に還りはじめ、新しい道標との世代交代が始まっています。

ならやま虫だより

菊川年明

◆ツマグロヒョウモン

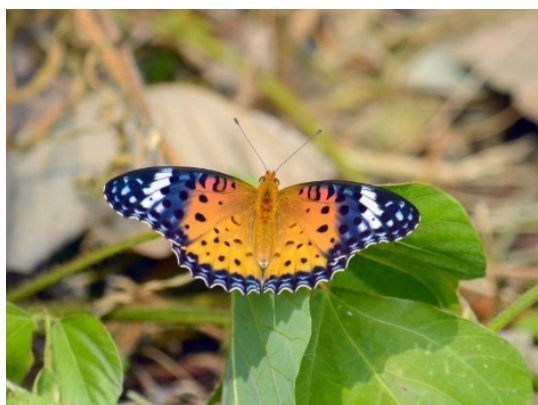
ならやまでは冬を除いてほぼ通年、普通に見られるチョウである。比較的大きく、前翅の開張は35mm内外、名前は前翅の棲(つま=端)が黒い豹(ヒョウ)紋様(柄)のチョウということに由来する。黒い部分があるのはメスだけで、その部分も正確には濃い青藍色である。豹柄の部分の地色は橙色で、オスの翅は全体がこの豹柄だけである。

翅が豹柄のチョウはヒョウモンチョウ族としてタテハチョウ科の中で1グループをなしている。

ツマグロヒョウモンは南方系のチョウで、以前は本州西南部、四国、九州に棲息し、関西地方では希なチョウであった。私が子供の頃、大阪の郊外でこのチョウのメスを採集したことがある。当時はたいへん珍しく、その標本は宝物のように大切にしていた。当時の昆虫図鑑には「ツマグロヘウモン」と書かれており、チョウは「テフ」と表記されていた頃のことである。

歳月が移り、平成になった頃には関西地方でもよく見られるようになり、最近のならやまではいくらでもいる普通種になっている。それでも10年くらい前までは関東地方ではまだ珍しいチョウであったが、最近では同地方でもたくさんいるとこのことで、棲息域は北の方へどんどん広がっているということである。

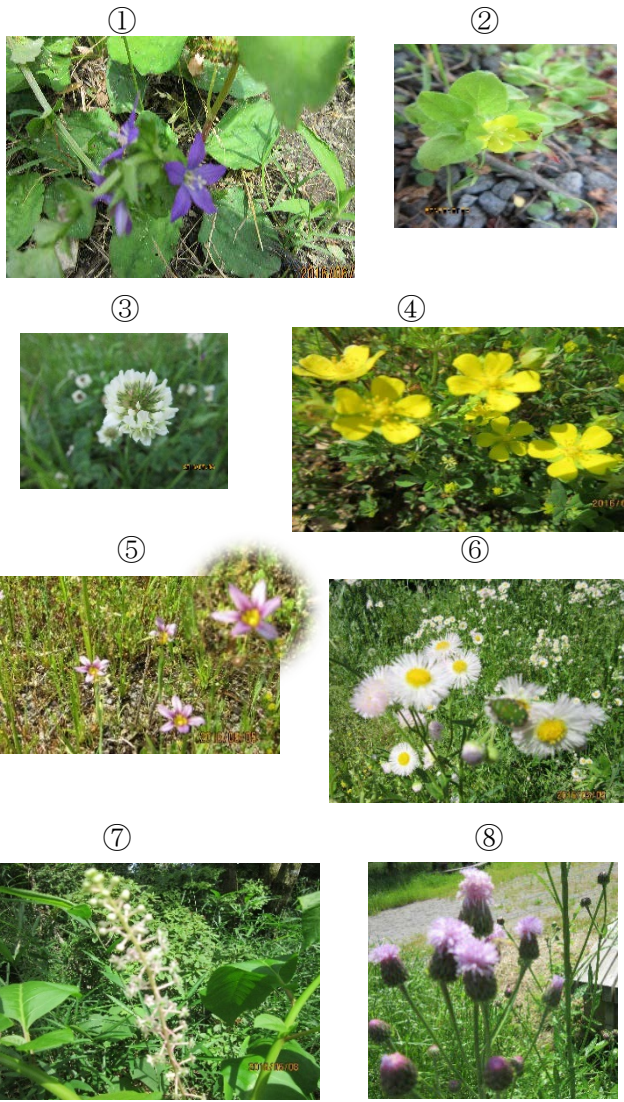
幼虫の食草はスマレ類であるが、棲息域が拡大したのは園芸種のスマレであるパンジーなどが普及したことが原因との説がある。その他には温暖化説もある。(写真はツマグロヒョウモンのメス)



ならやま花だより

桜木晴代

今回は佐保自然の森の初夏の花を紹介します。



花の名前

- ① キキョウソウ ⑤ニワゼキショウ
- ② コナスビ ⑥ヒメジョオン
- ③ シロツメクサ ⑦ヨウシュヤマゴボウ
- ④ ヘビイチゴ ⑧キツネアザミ

佐保自然の森は、おそらく一番訪れることのない地域と思われます。が、数年前に植えた木も大きくなり、四季折々の花を咲かせています。

ウメに先がけて咲く、見事なロウバイ。続いてエゴノキ、サンシュユなどが白や黄色の花をいっぱいつけます。来年は見ごろの予告ができるようになれば良いのですが。

これからはヒマワリの開花が待たれます。



涼風や青田の水路友の顔

不意打ちのような訃報だった。ならやまの活動中、急逝を聴き、私はいまだに動転したままだ。

近所の畑仲間だった遠田龍美さんをならやまの活動見学に誘ったのは、昨年暮れだった。たちまち気に入り、その日のうちに入会申し込みをし、「ここ、ええわあ」と繰り返していた。彼は近隣を中心に、カメラやカラオケの愛好会、サイクリングクラブ、ベーチェット病友の会など活発にグループ活動や社会活動をしていた。多忙で、虜になったならやまの活動もなかなか続かなかったようだ。いつか、活動日のラジオ体操が終わったころ、私の携帯電話が鳴り、彼が「吉川はん、今日も活動やってるか?」と言うので、「この電話、どこから?」と尋ねると「サイクリングで四国一周中。いま今治」と言ってカラカラと笑った。楽道家でにぎやかで、陽気の塊のような人だった。

そんな彼にも心残りがあつたはず。ベーチェット病のため光を失った奥さんを残したことと、近年習い始めたギターの演奏をならやまの仲間にかかせたいと願っていたのに果たせなかったことだ。奥さんは気丈な人だし、ギターは、私がやがてそちらへ行ったら聞いてあげる。気にせず安らかにお眠りください、遠田はん。合掌。(吉川利文)

遠田さん、貴方との初対面の日、いきなり三角関数の難問を投げかけ、まるで数年来の知己であるかのように声を掛けてこられましたね。何とか正解を出すことができ、胸を撫で下ろした日が、昨日のように蘇ってきます。

多方面の分野でご活躍されており、ならやまでは数回しか共に汗することはありませんでしたが、水田の取水U字溝の敷設に精力的に取り組んでいただきましたね。そのご努力により大変便利になりました。小学生が田植え実習にきてくれる度に貴方のことが偲ばれます。ならやまに足跡が輝いています。見守っていてくださいね。

ご冥福をお祈りいたします。合掌(鈴木末一)



ボランティア活動 について

阿部和生

「一億総活躍社会」という言葉が流れてきます。自分の事が他者を煩わすことなく生活できる「健康寿命」を、できるだけ「命尽きるまで」に近づける行為と私は勝手に解釈しています。高齢化社会で生き長らえるにしてもできるだけ社会の負担にならぬよう心掛けることが、自分にできることだと思うのです。「明るく・楽しく・無理をせず」、「奈良・人と自然の会」がその拠りどころの一つで、このボランティア活動を大切にしたいと思っています。

日本のボランティア活動は、阪神大震災が大きな起点になって定着したと言われます。ボランティアという言葉の適切な日本語訳が見つからなくて、「自己犠牲を伴う無償の奉仕」とか「志願兵、篤志家」、いずれも適切な言葉とは言えないので使用されていません。西洋の「神との約束・他者への奉仕」の考えから、日本型の「生き甲斐と絆を求め自分探しと社会貢献ではないかと。誤解を恐れずに言えば、ボランティア活動の主要な目的は自分の為(三浦清一郎氏)に共感しています。

自然を共通の課題にして、友があり、仲間があり、それなりの研鑽もでき、身体を動かす作業もある。時には子供たちへの、あるいは一般の方へのアウトプットもある。そうしたことは、ボランティア活動でありながら自分が楽しんでいると思っています。嘗て福祉関係の方々の中で、「有償ボランティア活動」という言葉が使われ、その矛盾した言葉が論争になりました。

そこへNPO(Nonprofit Organization) 概念による統合があり、活動スタイルの違いを包括し今日に至っています。有償であれ無償であれ、「営利を目的としない」として、社会的にも認知されています。NPOの範疇には、法人登録した団体も任意の団体も含まれ、広義のNPOの解釈では、社会福祉法人地縁団体まで含むと解釈されています。有償という範囲をどのようにとらえるか?世間に通用する常識というフィルターを通しての実施は理解されると考えています。

歴史文化クラブ5月研修会

「丹後王国と日本海文化」 坂東久平

5月23・24日に、参加者21名で、一泊二日の歴史文化クラブ・研修旅行を開催した。

今回は、企画準備に委員会を設け、コアメンバーの川井代表（七姫伝説）、古川事務局長（丹後王国全般）、中井さん（神社と鉄の道）、坂東（古墳）と新会長の鈴木さん（旅程や旅館、食事の場所、バスの手配）、地元丹後出身の塩本さん（鉄の道、ルートの下見）にも特別参加をしていただいた。3カ月間の検討で、26ページの研修会資料と付録4ページを作成した。

（2日間の行程）

初日：西大寺駅⇒与謝天橋立IC⇒大宮売神社⇒間人の「味工房ひさみ」にて昼食⇒丹後西海岸・立岩・屏風岩⇒丹後古代の里資料館・竹野神社、神明山古墳⇒嶋児神社⇒網野銚子山古墳⇒遠所遺跡⇒ホテル・丹後王国（懇親会・宿泊）

2日目：ホテル⇒久美浜湾・函石浜遺跡⇒如意寺⇒「豪商稲葉本家」にて昼食⇒乙女神社⇒丹後郷土資料館⇒元伊勢籠神社⇒舟屋の里 伊根⇒与謝天橋立IC経由⇒西大寺駅

西大寺駅を定刻に出発し、最初に川井代表の挨拶、次いで古川さんより「丹後王国と日本海文化」総括説明、更に川井さんの七姫伝説と進み、最初の訪問地・大宮売神社に到着した。

丹後は朝鮮半島や中国との文物交流の表玄関であり、縄文時代から丸木舟で日本海を渡り、文物がもたらされていた。弥生時代には丹後半島に竹野川流域を拠点とする有力な勢力があり、当時最も重要だった鉄の輸入路を支配し、交易により力を蓄えていた。

丹後の里資料館の解説によると、丹後王国の時代は、2世紀後半から5世紀前半である。

王国の力は、日本海3大古墳の網野銚子山古墳、神明山古墳、蛭子山古墳の大きさに現れており、古墳の麓には、潟湖を中心に交易の窓口であった函石浜遺跡等が広がっていた。

朝鮮半島南部から持ち込まれた鉄の素材は、遠所遺跡などの製鉄所で加工され、ヤマトに運ばれたと

考えられる。そのルートの一つとして、竹野川から野田川へ（山越え）、更に宮津湾から由良川を遡り、加古川へ（山越え）そして瀬戸内海からヤマトへと、2度の山越えをしたものと推定されます。

大宮売神社は竹野川から野田川へ山越えをした地点にあり、重要な拠点であったと思われる。



丹後王国とヤマト王権の間には、密接な関係があり、垂仁天皇皇后（日葉酢媛）は丹波道主王の娘で、その他多くの関係で結ばれていました。

丹後には、元伊勢籠（この）神社があり、天照大神が伊勢に遷る前の4年間は、ここに鎮座されていたとされています。

丹後には、ヤマト王権から見た歴史のほかに、大陸交流の十字路として育まれた固有の地域史や豊かな伝承があります。七姫伝説など、小野小町を初め多くの有名な美女達の誕生地であり、浦島太郎伝説もここに 있습니다。（川井さんから外見の美女でなく、心の美人になって欲しいと話があった。）

湯船坂2号墳出土の「金銅装双龍環頭大刀（国宝）」：丹後古代の里資料館では、出土品のレプリカが、丹後郷土資料館では、復元された黄金色のレプリカを見ることができた。

美味しかったのは、「ひさみ」の海鮮丼、「稲葉本家」のバラ寿司であった。

皆様の熱意とご尽力のお陰で、丹後に残る豊かな歴史遺産と素晴らしい自然に触れることができ、充実した研修旅行となりました。今回の研修会に参加されなかった方にも、機会を見て是非一度丹後を訪れられることをお勧めします。

ホテル・丹後王国では、LEDイルミネーションが綺麗であった。宴会後の片付けを池田さんと青木さんがシッカリとやっていただき、ホテルからお礼がありました。鈴木さんには、並の添乗員でもまねの出来ない気配りを頂き、ありがとうございました。

6月・自然教室チーム報告

育英小学校 校庭自然観察会
夏のならやま自然観察会

『育英小学校 校庭の自然観察会実施報告』

奈良市法蓮町の育英小学校の依頼を受け、6月7日(火)午前11時から12時半までの90分間、同校の1年生13名、2年生16名を対象に校庭での自然観察会を実施した。

近畿地方でも6月早々に梅雨入り宣言が出され当日の天候が危ぶまれたが、午前中は何とか持ち、



突然の大雨となったのは観察会終了後、全員が教室に戻ってから。天も味方する一日だった。子供達は

【カエデのプロペラ飛ばし】 終始ハイテンションで、鏡を使つての自然遊び「ミラーウォーク」では全員が大はしゃぎ、カエデの実をプロペラに見立てて飛ばしたり、クロガネモチの葉で葉巻笛を作って鳴らしたり、どの子も私達の言う事をしっかり良く聞き、自然観察を楽しんでくれました。

当日参加のスタッフは自然教室チームメンバーの中から9名。5班編成の子供達にほぼ二人体制で臨む事が出来ました。観察ポイントは1年生(4ポイント)、2年生(5ポイント)で、合わせて9ポイント。校庭内の植物観察を通じ子供達には充分自然に親しんでもらえたと思います。



【自然工作のお時間】 【個性的な作品群】

教室ではドングリの帽子(殻斗)やカボチャの種など自然のものを使った自然工作で思い思いにペンダントを作ってもらいました。

皆の個性が花咲き、素晴らしい作品が出来ました。是非次回は皆様も仲間にお入りください。

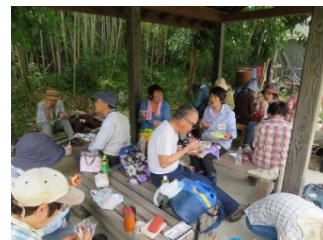
『夏のならやま自然観察会実施報告』

6月8日(水)午前10時、「この指たかれ」とばかり、私達が普段慣れ親しんでいるならやまベースキャンプに20名の会員の方々が参集、この日の自然観察会に参加頂きました。 【当日の参加者】



当初触れ込みの里山山中散策は後回し(観察会の最後には参加者の内有志9名の方に里山内を案内させて頂きましたが)にして、冒頭からならやま里地での植生調査にご協力頂きました。

今回観察会の目的は、普段ならやまに出入りしておりながらついつい見落としがちな植物に一度じっくり目を向け、私達のベースキャンプを居場所



【ランチブレイク】 どの様なものが有るのかを知る機会を得ることでした。実際、今回の調査で想像以上にならやまの植生は豊かであると言う事が分かりました。

範囲を里地エリアに留め、時間も午前中の1時間半と限定したにも関わらず、予想した数字をはるかに超える173種の植物を同定する事が出来ました。その一部をここに紹介させて頂きます。 【タカサブロウ】



アオミズ、ツボミオオバコ、キキョウソウ、ヤマミツバ、カエデドコロ、カニクサ、アゼナ、タカサブロウ、カキドウシ、エノキグサ、等々。

撮った写真の数も優に200枚を越え、今回の調査結果は私達のならやまの自然の豊かさを象徴するものとなりました。さてこれからが大変。自然教室チームでは、これらのデータをもとに当会の誰もが、簡単に植物の同定が出来る写真入り資料を逐一作成して行く予定です。乞うご期待!!

(辻本信一)

6月度 月例研修会

「矢田丘陵の歴史散歩」 西谷 範子

6月14日(火)。天気予報はちょっと外れて、空は少し雲に覆われていたが、今回の行程は最後までこの天候に助けられた。



集合場所の丸山橋に集まった参加者は23人。今回の担当は歴史文化

クラブで、歴文の例会も兼ねている。ハイキングを楽しみながら矢田の郷の寺社、史跡も覗こうという企画である。

9時20分出発。初めに富雄丸山古墳の墳丘の周りをまわる。南北径102m、高さ12mの円墳で今は公園になっている。知らなければ古墳と見えないような自然のたたずまいである。墓の主は分からないが石器、銅器、鉄器の武器や農機具、玉製品などが出土して、京都国立博物館に保管されている。

ここから遊びの森に向けて、木立の中の緩やかな登りに入る。コシアブラ、タカノツメ、藤などの木々や灌漑用のため池などがあり、かつて里山利用されていたことがうかがえる。ウグイスがけたたましく警戒音を発している。

歩きやすく涼しい道だがやはり登りは汗ばむ。ミニ休憩を経て30分で遊びの森下ノ池へと出る。池の亀やカルガモをながめて、矢田丘陵を南に歩く。勾配は少しあるが、ここも日蔭の道である。檜枯れが散見される。

峠を下る頃から足元が悪くなる。前日に雨が降ったこともあり、すべらぬようにゆっくり、ゆっくり。今日の行程でこの数分間が要注意の道であるため、案内に「ストック」と書いておいたのだが、それがかえって厳しいハイキングと用心された向きがある。

誰もすべらず転ばず、10時55分東明寺に到

着。舎人親王が母の持統天皇の眼病平癒を謝し、建立した。こじんまりした本堂に重文の薬師如来、地蔵菩薩、毘沙門天、吉祥天が祀られており、この期間はちょうど御開帳されていた。軒下の象の彫り物の色彩があざやかに残っている。境内の沙羅の木が今を盛りと白い大きな花をたくさんつけている。

ここから矢田の郷へ下りて、早苗たなびく田園風景の中を歩く。道端の野草も日本古来のものが多く残っている。喜ばしいことである。

この田んぼの中に「伝承邪馬台国想定地・三の矢塚」の石碑が建っている。古事記の饒速日命(ニギハヤヒノミコト)伝説の場所である。

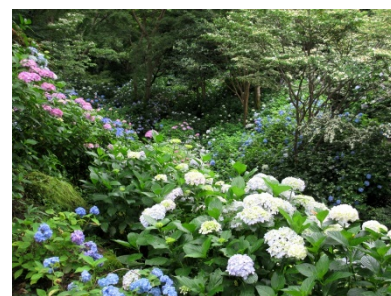
天照大神の命を受けた饒速日命は70人を超す大軍を天の磐船に乗せて天空を飛び、この地に降臨する際、空から3本の矢を同時に放った。その3本目の矢が落ちた場所とのことで、郷の名の矢田はここからきている。

宮居は二本目の矢が落ちた所に作られ、矢田坐久志玉比古神社として祭神に祀られている。12時前に神社に到着。本殿は春日造りで重文であるが、創建時は宏壮美麗を極め、その勢力は大きなものであったらしい。

ここで昼食後、矢田寺に向けて矢田丘陵に行く。30分で矢田寺の本堂横に到着。紫陽花の期間のみ入山料500円。23名でも団体割引はなし。紫陽花はちょうど8分咲きで雨上がりの曇り空に、赤、青、白の大手まりが鮮やかな見頃である。矢田寺は地蔵菩薩が本尊だが、境内の味噌なめ地蔵は口のまわりにべったり味噌が塗ってあっていさかグロテスクである。

沢山の紫陽花の間をぐるぐる巡って楽しむ。この季節のみ出ている臨時バス14時35分に乗り、15時前に郡山駅にて解散。

ハイキングの道中と言い、紫陽花の見頃と言い、ちょっと曇った日本晴れで最適の天候であった。全員完歩し、お疲れさまでした。



佐保台小学校5年生 田植実習・報告
松本武彦

6月9日(木)、恒例の佐保台小学校5年生児童による田植えが行われました。

二人の先生に引率された児童23名は、予定より30分早い9時半に里山に到着。「午後から雨」の予報に、予定を繰り上げたとか。屈託のない子どもたちの声が新緑の谷間に響き、里山に賑わいと華やぎを演出しました。

直ちに開会セレモニーが行われ、鈴木会長の歓迎の言葉を受けて、子どもたち代表の二人が「よろしくお願いします。」と言葉を述べ、早速田に向かいました。

田では、田植えについての簡単な説明を聞いた後、それぞれに割り当てられた区画で初めての田植えに挑みました。

田の中の様子に分からず恐る恐る田に足を入れる子、サンダルのまま田に入ってしまう身動きの



とれない子、泥に足を取られてバランスを崩す子など、子供たちにとっては、田の泥との戦いが田植えの第一歩だったようです。

しかし、尻餅をついても泥まみれになっても、たとえ時間はかかっても、みんなが持ち分を植えきり、田2枚を見事黄緑色に仕上げました。

そして最後に、田の神に花を手向け、全員で順調な生育と豊作を祈願しました。秋には「子どもたちの黒米」が食膳を飾って呉れることでしょうか。子どもたちに混じって田植えをした会員の方々の顔もほころび、爽やかな風が水面を揺らしました。



「田植え」。ここから子どもたちはどんなことを学んでくれたのでしょうか。それがたとえ些細なことであっても、彼らのよき思い出となり成長の糧となることを期待して止みません。

鳥シリーズ 7月号 小田久美子
「探鳥」と「バードウォッチング」

日本で「鳥」と云えば焼き鳥にして食べるか、せいぜい鳥籠に入れて飼うという発想しかなく、鳥を見て楽しむなどと云ったら変人扱いされた時代の1934(S9)年、中西悟堂によって創設された日本野鳥の会は、その後もなかなか認知されなかったようです。「野鳥」「探鳥」は悟堂の造語ですが、会報「野鳥」は「のどり」と読まれ、S40年代でも「探鳥会」の開催掲示には、鳥の部分が女に直され「探女会」なら分かるけどなどと言われた。口の悪い友人などには、ピーピング・クラブ「覗き見クラブ」と通称され、貴重な双眼鏡も覗く道具としか見られなかったという話も聞きます。

野鳥の会が広く知られるようになったのはご存知のように「紅白歌合戦」でのカウントダウンです。



その頃から「バードウォッチング」と共に、双眼鏡を持ち歩いても「良いご趣味ですね」と云われるようになりましたが、今でもスコープ(望遠鏡)を担いで歩くと「写真ですか?」「え!見るだけ!!」まだまだだなあと、寂しい思いをします。

「バードウォッチング」という外来語の方が先に認知度が高くなりました。バード(鳥)をウォッチング(見る)。確かに。それだけでしょうか。

云うまでもなく、鳥は盛んに声を発し多くは美しい囀りを持ちます。目で「見る」ことだけではなく耳で「聞く」も十分に働かせて、環境も体感し楽しむ。時には双眼鏡などに頼らず、肉眼であるがままにウォッチングすることも大切なのではないのでしょうか。こうしてみると、「探鳥」というちょっと古めかしい言葉が一番適当な感じがして来るではありませんか。「探鳥」とは見るだけではなく、鳴き声を聞き、鳥を捜して求めるという意味なのですから。中西悟堂の造語の妙をあらためて感じる今日この頃です。

やさしい病害虫講座 24

「サルスベリ花満開、病害虫も大張り切り」

木村 裕

夏の花として長く咲き続けるサルスベリの病害虫を紹介します。

【うどんこ病】

名前の通り、うどん粉を振りかけたように葉やつぼみに白い粉のような物がつく病気で、どこのお庭でもごく普通に発生します。非常に厄介な病気で被害を受けた葉や蕾は粉まみれになって花つきが悪くなります。5月の新葉展開時から発生し、秋の花が終わる頃まで連続的に発生します。このうどんこ病は、マサキ、ハナミズキ、カシ類でもよく発生します。ならやまの農園ではエンドウの葉や実が真っ白になっていましたね。乾燥すると発生しやすいと言われていますが、それほど乾燥していなくても発生します。

そのまま放置すると花つきが非常に悪くなりますので、発生に気づいたら「うどんこ病」専用の殺菌剤を散布します。早いほど後の回復が早い。



【サルスベリヒゲマダラアブラムシ】

葉の裏にゴマ粒のような黄色の小さな虫がいつぱいつきます。葉の裏から貴重な栄養分である汁を吸いますのでかなりダメージはあると思うのですが、サルスベリはかなり鷹揚で、たくさん虫がついても何も言わず、平気な顔をしています。

しかしアブラムシはお尻からべとべとした物質を断りもなくどんどん排出するので、葉や枝はべたつき、その上に虫の脱皮殻やホコリが付着して葉は汚くなります。後始末はしてくれません。

幼虫も成虫も体色は黄色ですが、成虫は褐色の斑紋のある羽があるので、親子の区別は簡単です。また、このアブラムシはサルスベリ以外の樹にはつきません。

アブラムシの発生からかなり遅れてテントウムシがやってきます。彼らに任すのも一つの方法ですが、テントウムシに悪い影響のない「アブラムシ」専用の殺虫剤を散布するのもよいでしょう。



【サルスベリフクロカイガラムシ】

幹や枝に一年中住み着いているカイガラムシですが、皆さんのお目に留まるのは5月頃と9月頃で、体内に卵をいっぱいため込んだお母さんの姿です。

枝や幹の上に白色の米粒のような物がいつぱいつ着します。これを割いてみて、紫色の虫がおればメスの成虫、パラパラと粉が落ちるようならそれは卵です。

5月ごろ卵からふ化した幼虫は枝にとりつき汁を吸いながら成長し、9月頃に成虫になります。この2回目の成虫からふ化した幼虫は冬の寒い間は樹皮や幹の隙間に潜んで少しずつ成長して春を待ちます。

アブラムシと同じようにお尻からベタベタした粘液を出しそれが葉や枝に付着します。その上にスス病菌が寄生しますので黒く汚れます。

カイガラムシは防除の難しい虫です。白い虫を見つけたら歯ブラシのような物で樹皮をこすって落とすのがよい防除法です。薬剤散布なら、冬にマシン油を幹に散布します。



玄壇寺

2月下旬に「邪馬台国が見える」北九州の旅というタイトルにつられ、日本旅行の企画ツアーに参加した。今回の目玉は吉野ヶ里遺跡を含む、北九州の邪馬台国連合国を回る旅である。



旅のガイドは吉野ヶ里遺跡発掘当初より発掘に係わってきたミスター吉野ヶ里の異名を持つ考古学者の高島忠平先生である。吉野ヶ里遺跡は紀元前1世紀～紀元3世紀ごろの弥生時代後期の環濠集落である。場所は新幹線鳥栖駅から車で20分程の筑紫平野の中央、背振山地に続く台地上の遺跡で多数の大型建物や、北九州特有の甕棺墓群、多数の土器等が発見されている。現在遺跡にはいくつかの大型建物が復元されており、一番北側の建物は祈りの場所で、嘗ては卑弥呼のような呪術者（シャーマン）が呪術を行っていたのであろう。祈りの場所の更に北側からは代々の王の墓が見つまっている。畿内では見られない甕棺という大型土器に埋葬されているのが特徴である。集落の回りは環濠で囲まれており、緊急時には人々は環濠の中に退避したものとみられている。

邪馬台国は3世紀中頃の倭国に存在したクニであり、中国の魏志倭人伝に登場することから、古代からその場所をめぐり畿内、北九州、その他の場所と様々な論争になっている。魏志には卑弥呼の使いに対し、「親魏倭王」の金印と銅鏡100枚を下賜したとある。この金印でも見つかれば邪馬台国の場所が特定されるであろうが、

邪馬台国を尋ねて

歴史文化クラブ・杉本 登

現状では決めつける証拠はなく永遠のロマンとなっている。この吉野ヶ里も邪馬台国の有力な候補地の一つと言えるだろう。魏志に邪馬台国へ至る道筋として書かれている対馬、壱岐を過ぎて末盧国（唐津周辺）伊都国（糸島周辺）、奴国（春日市周辺）と関連する古墳と歴史史料館を回った。

その中で最も強烈に印象に残ったのは北部九州最大の前方後円墳岩戸山古墳と展示館いわいの郷である。邪馬台国より後の527年筑紫の君磐井がヤマトに叛き反乱を起こした。時は継体天皇の世で磐井征討のため、物部麁鹿火が征討将軍で派遣され1年以上も戦いは続いた。最後に磐井が斬られ乱は終息した。この古墳は八女丘陵にある古墳群の一つであるが、畿内の古墳にない特徴を持つ。それは石の人物像や馬の像が古墳に並べられていることである。埴輪を並べるかわりに巨大な（2m近い）石人、石馬像が並んでいる様は壮観であった。また、古墳



は中世以来神社が頂上に祭られていたため、未盗掘であるという。但し、古墳内部の装飾壁画の保存法が確立していないので現在のところは発掘の予定はないそうである。

今回は高島先生という良き道案内の先生がいたため、邪馬台国を尋ねる旅が一段と楽しくなった。夜も先生の研究成果や松本清張と考古学のお話など考古学ファンにはたまらない熱い時間であった。邪馬台国のロマンに浸りつつ帰路についた。

雨に浮かれやがて溺れる蚯蚓かな 古川 祐司
小さな生き物の生態観察。見落としがちな光景の写生句は流石。滑稽味と物語性が凝縮されて、これぞ俳句の真髄。佳句。

推若葉絵馬に鈿女のお国ぶり 古川 祐司
五月歴史一泊の旅。鈿女は「天の岩戸」の踊り手 アメノウズメ。丹後地方の祭神は何故か女神が多い。「推若葉」が季節を象徴する。

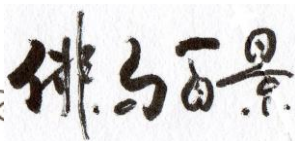
大鷹翔ぶ虚空に夏の広がりぬ 八木 順一
某日、里山の天空にオオタカの雄姿を目撃。T氏のカメラに収まる。作者は紺碧の空に夏の兆しを感じる。オーイ何が見えるかい。

春宵の散歩の手にもスマホかな 八木 順一
時代ですかな。今やスマホは若いひとの肌身に不離の必需品。スマホばかり見ないで春宵値千金を楽しんで下さいよ・・・。

緑なす墳に眠りし金の太刀 坂東 久平
丹後めぐりの印象句。資料館にて国宝金銅装双龍環頭太刀拝観。湯舟墳から出土。権力の象徴か。この句、正に歴史の一行詩。

風薫る車中にひびく宮津節 坂東 久平
作者は民謡の手習いなかば。ご当地の宮津節を朗々と披露。休息中の方には騒音だったかな。いやいや名調子だったよ・・・。

田仕事を了て今宵の螢狩 羽尻 嵩
田植の日。日が暮れていそいそとホタル観賞に里山へ。例年より乱舞の光景が華やか。昼の疲れも忘れ、満足・満足。



監修 川井秀夫



老鶯やケキヨケキヨケキヨと二分半 鈴木 末一
森の中で、美声のハーモニーに聴き惚れる。二分半が奇抜。正確な時間ではなく作者の感性でしようか。忙中閑の無心の時。

風に鳴る丹後の絵馬と青葉騒 鈴木 末一
薫風が演出する。絵馬のカラカラ、青葉のザワザワ、一曲のメロディ。作者にこんな音感の鋭さがあつたつけ・・・(失礼)

山法師やさしき女の植えし木よ 櫻木 晴代
本稿、初期の頃の投句を記憶しています。これを機会に、またご健吟下さい。抑えの「よ」の呼びかけ。誰かさんとの会話が聞こえてくるよう。

田水引く神の運びし矢田の郷 西谷 範子
6月例会。矢田丘陵散見。古代の神々の伝承多く稲作文化の発祥の地。ニギハヤヒノミコトの放った三本の矢の故事による。青田が美しい。

北ツ海ハマヒルガホと間人と 青木 幸子
北ツ海は日本海の古名。間人は穴穂部皇女。聖徳太子の生母。群生するヒルガホと皇女の碑の対照が面白い。歴女の面目躍如。

代掻きや餌獲り忙し石たたき 小山喜与男
「石たたき」は道路で啄む姿からセキレイの異名。代掻機の後を追いかける姿は正に「泥たたき」。鳥たちの餌獲りも大変。

代掻きの足の抜きさしトホホホ 川井 秀夫
田植への準備、代掻き。馴れぬ動作に二本足がままならぬ。年ですナ。オノマトへの表現が全て。笑わないでね、真剣なんだから・・・。



時節は梅雨に弄ばれて

谷川萬太郎

つい昨日まで暖かな春の陽だまり浴びた緑美しい野山よ
 うららかな季節の光が清しき瞳に眩しく映えた青い空
 恋しや短き春の別れ切なく夢半ばでその扉を閉ざすのか
 乙女心が変る夕暮れに笑顔が消えて泣きべそかいた空
 時雨雲に誘われてそぼ降る小糠雨がしとすとと雨音消えて



朝霧に霞む朝明けに描かれしは薄い墨絵のような雨景色
 庭先の露時雨に白い花が微笑み返すクチナシの花の甘き香り
 緑の青葉に光る玉露がそっと宝石箱から零れ落ちたように
 雨上がりの午後忘れかけた新しい季節の行方捜して
 近くて遠い故郷眺めれば時雨の宿で雨乞いする夏の光が

ならやま茶論

「田 植 え」

竹本 雅昭

先生：みんな分かったか・・・分かったら
 手を挙げて。
 田圃：挙げる者・地べたに座り込んでゴソ
 ゴソ・あらぬ方を向いてキョロ
 キョロ。小五よしっかり聞いてくれよ。
 先生：よ～し分かったら一列になって・・・
 行くぞ。
 田圃：ほとんどが穴あきサンダルだ。いつの
 時代も流行には弱いんだ。
 先生：裸足になって紐の張られたコースに
 一人ずつだぞ。
 田圃：この湿地に復活させてもらってから
 古代の黒米を栽培。今年で生徒の学習も
 8年目、大人っぽい子もそうでない子も
 それぞれかわいい。
 声掛けおじさん：ほないくでー。横紐を
 30cm ずつずらして行くからその線に
 植えてや。分かった!!みんな聞いている!!

田圃：なかなかうまいもんや、縦・横・斜と
 まずまずや。ワァ～、キャ～とあちら
 こちらで尻に泥をべったりつけて
 一生懸命や。

先生：みんなご苦労さん、泥を洗い流したら
 自分の名札を畦に立てること。よ～し
 最後に田の神に花を生けて豊作を祈る
 儀式をするぞ。

田圃：みんな手を合わせてモグモグと
 祈ってる。私も頑張るから元気に稲刈
 に来てくれよ。

人々：いつも思うことだが、この子達は
 自分の命についてどう思っているの
 だろう。それぞれの両親を 20 代前まで
 遡ると、その数 1,048,576 人とのこと。
 今ここにある命、どうぞ健やかに育つて
 と願わずにはおられない。

～終～

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

7月	7 (木) 28 (木)	14 (木)	21 (木)
8月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。

◆ 連絡先：八木 順一



里 山 Gr

7/7 協働作業の日

イベント工作準備
林野庁：里山林整備作業
薪割り



14 21

イベント工作準備
林野庁：里山林整備作業／薪割り

28

林野庁：里山林整備作業／薪割り

エコファーム Gr

7/7 協働作業の日

人参播種 水田の除草（コナギ） 畑周り草刈り
14
茄子、トマト、唐辛子、ピーマン、パプリカ剪定
水田の除草（コナギ）

21

水田土用干し 水田の除草（コナギ）
玉葱、ジャガイモ、ニンニク畑、エンドウチップ
入れ 耕耘

28

水田湛水 ポカシ肥作り
枝豆除草追肥 里芋畑湛水

景 観 Gr

7/7 協働作業の日

整備 彩の森周辺の草刈り
ビオ 池の整備
花 菊等の移植
パト 観察路周辺の笹刈り

14

整備 彩の森周辺の草刈り
ビオ 西池水生生物調査
花 花菖蒲園の草引き・鬼百合移植
パト 丸太階段の補修

21

整備 BC 周辺の草刈り／各蕎麦畑の向日葵伐採・鋤込み

ビオ 池の整備
花 シェードガーデン整備・山野草園草取り・名札立て

パト 倒木、枝払いと処理

28

整備 各蕎麦畑の草刈り・ヒマワリ伐採・鋤込
ビオ 西池水生生物調査
花 アジサイ選定・花生姜施肥、柵作り
パト 安全ロープ、ポイント標識の修復保全





行事案内 part 1

山もり・てんこ森

～山・川・海の恵みを未来へ～

「平成 26 年 11 月に奈良県で開催されました『第 34 回全国豊かな海づくり大会～やまと～』の基本理念『山は川を育み、川は海を育む～山・川・海の自然の恵みを未来に～』を継承し、『山と川の恵みに感謝する気持ち』を県民のみなさまに持ち続けてもらうことを目的として、県内各地で普及啓発イベントを開催します」

以上は平成 28 年度ポスト「全国豊かな海づくり大会」開催に関してのイベント実行委員会よりの紹介文抜粋です。当会では本大会の趣旨に賛同し、奈良県立野外活動センター（吐山）にて催されるメインイベントに今年も参加致します。



【昨年は大盛況でした】

里山グループの皆様を中心に既に 11 名の参加スタッフが決定しており、当日は 5 台の車に分乗して会場に入ります。会員の皆様には当日お客様として来場していただき、自然の中での森林体験を満喫していただければと思います。

イベント参加内容は以下の通りです。

1. 日 時：7 月 18 日（月・祝）10:00～15:00
2. 会 場：奈良県立野外活動センター
（奈良市都祁吐山町 2040）
3. 主 催：ポスト「全国豊かな海づくり大会」
実行委員会
4. 内 容：自然工作（工作指導）
竹のカスタネットとブンブンゴマ
5. 自然工作準備セット数：約 150 名分
（辻本信一）



7 月 月例研修会のご案内 鞍馬寺から貴船神社へ、

鞍馬山の緑陰と貴船川の清涼ハイキング

京の北の奥座敷、鞍馬・貴船の古道を散策します。神の宿る山(標高 583m)として、鞍馬天狗や義経の伝説など神秘的なパワースポットのある鞍馬山、水占いで有名な貴船神社本宮、和泉式部ゆかりの結社（中宮）へと歩きながら美味しい空気・美しい自然と森林浴が楽しめます。歩いて約 3 時間のハイキングです。多少の階段などあります。

今回、叡山電車の出町柳から出発し、車中、青もみじを見ながら約 30 分で鞍馬駅に到着します。

【実施要領】

※ 日 時：7 月 19 日（火）（雨天中止）
 ※ 集 合：叡電出町柳駅改札前 9 時 15 分
 大和西大寺駅 8:11 発—近鉄丹波橋 8:44 着京阪丹波橋 8:53 発—出町柳 9:08 着（出口 7 番から叡電出町柳駅）叡電出町柳駅 9:22 発鞍馬行です

※ コース：鞍馬駅-鞍馬寺仁王門-由岐神社-鞍馬寺金堂-霊宝殿（昼食）--木の根道-奥の院魔王殿—貴船神社奥の宮-結社（中宮）-貴船神社本宮-叡電電鉄 貴船口駅 14:41—出町柳駅 15:10 着予定（歩行距離 5 km）

※ 持ち物：弁当、飲料、雨具、ストック

※ 担当 山中・永井・冨井



鞍馬寺仁王門



行事案内 part 2

GG プロジェクト案内

今年度のグリーンギフトプロジェクト、イベント行事第2弾として、7月23日(土)ならやまベースキャンプにて「夏だ! 休みだ! 里山で遊ぼう! ①」を開催致します。

「市街地に残る里山で飯盒炊爨や昆虫観察、自然工作を通じ、子供達とその保護者に里山の素晴らしさと自然環境保全の大切さを体感してもらい自然環境教育の輪を広げる。」を合言葉に県下の小学生児童を対象に下記要領にて実施致します。



1. 日 時：平成28年7月23日(土)

10:00~15:00 (受付開始 9:30)

前日 19 時前の NHK 天気予報で**降水確率 50%以上の場合、7月30日(土)に延期。**

2. 場 所：ならやまベースキャンプ

3. 内 容：

10:00~10:30 オリエンテーション

10:30~13:30 飯盒炊爨、カレーを調理

13:30~14:30 昆虫観察&自然工作

14:30~15:00 本日の振り返り

4. 参加費用：子供・保護者各自お一人 500 円

5. 募集人員：小学生 40 名及びその保護者

6. 申込方法：メールまたは郵送にて7月1日(金)から7月14日(木)まで申し込み受付
メール宛先：event@naranature.com

受付担当：辻本信一

7. その他：申込書記入方法、持物・服装等詳細は同封チラシ・当会 HP をご参照下さい。

奈良県下から多数の参加者が見込まれますので、会員の皆様にはスタッフとして、多数ご参加いただきますようお願い致します。(辻本信一)

7月歴文研修会ご案内

「高見川流域から宮瀧遺跡」 吉野の歴史を訪ねて



7月の歴文研修会は、炎暑の下界を離れて涼しい高見川から吉野川宮瀧にかけての史跡を探訪します。

吉野の地は、古くは神武天皇東征の道となり、飛鳥時代、斉明天皇に愛された吉野離宮、天武・持統天皇にとっては歴史を転換する壬申の乱の原点になります。「歌書よりも軍書に悲し吉野山」と詠われた中世では、王政復古を意図し挫折した後醍醐天皇の「建武の中興」、「南北朝の対立」時代の悲劇の舞台となります。このような底流は天誅組の挙兵につながります。明治維新前夜に倒幕の先駆けとなった天誅組が、最後まで頼ったのも吉野の地であり、十津川郷士でした。

7月の歴文研修会は、このような歴史の大きな節目でその舞台になった「吉野」を訪れて、歴史の流れに思いを馳せてみたいと思います。

また高見川源流に近い「やはた温泉」で汗を流し、名物の天然アユを頂くという、おまけも用意しました。歴史談義もさることながら、さわやかな山風に吹かれながら至福のひと時を味わって見ませんか。

《コース》

西大寺駅—宮瀧遺跡—宮瀧資料館—蜻蛉の滝—森と水の源流館—丹生川上神社・上社—天誅組遺跡—丹生川上神社・中社—やはた温泉—西大寺

《実施要項》

日 時： 7月25日(月) 雨天実施

集 合： 近鉄西大寺駅南口 08:30 出発

携行品： 昼食 飲み物 雨具 タオルなど

募集人員： 27人(マイクロバス利用) 先着順

参加料： 3000円(入湯料500円、アユの塩焼700円等は別途個人負担)

担当世話人：坂東・弓場・中井・川井・富井

《申込み》歴文事務局の古川までお申し込みください。



行事案内 part 3

8月 月例研修会のご案内 草津水生植物公園と琵琶湖博物館の見学

<水生植物公園> ここでの見どころは、年々増え続けている花蓮の群生で、この日は花蓮の最盛期で、一面に咲き広がる蓮の花に圧倒されることでしょう。また、ロータス館では、様々な睡蓮を見ることが出来ます。

<琵琶湖博物館> 20年前に開館したこの博物館は、第1期のリニューアルが終わり、新しくなった展示が見られます。例えば、ヨシ原に分け入った時の世界を五感で体感したり、ヤナでジャンプするアユの様子や、下流部で産卵する魚の様子を観察できます。また、関西初のバイカルアザラシや様々な魚介類も見ることが出来ます。

爽やかな1日にしましょう！

《実施要項》

日時：8月3日(水) (雨天決行)

集合：8時20分 近鉄西大寺駅南口

(トイレを済ませて集合してください)

参加費 3,000円 (入館料、ガイド料、バス代
…バスはマイクロバス 27名乗り)

持物：飲み物、雨具、弁当 (博物館にはレストランもありますが、当日、弁当を食べる場として、雨除け・日除けの広場の利用を予約しています)

募集人数：27名 (先着順で締め切ります)

世話人：小山喜与男、羽尻嵩 (090・5120・8151)

スケジュール

8:20 近鉄西大寺駅南口 発 … (バス) …

9:50 着「草津市立水生植物公園」

10:00～植物公園内のロータス館にてガイドの案内で睡蓮などを見学、琵琶湖の花蓮の群生を觀賞

11:40～「琵琶湖博物館」へ

12:00～昼食 (食事場所で昼食)

12:40～研究員のレクチャーと質疑応答

13:20～A、B、Cの展示室と水族展示室の見学

15:00 帰路につく (西大寺駅到着 16:30頃)



8月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

8月 4日 協働作業の日

8月20日(土) GGイベント (予備日 8/27)
ワクワク! ドキドキ! 里山で遊ぼう!

*自然教室

8月23日 燕の埒入り見学 (平城宮跡)

★--* ♪--*★--* ♪--*★--* ♪--*★--* ♪--*★--* ♪--

仲間入りしました



更谷佳津子

里山「人と自然の会」の言葉を耳にしたのは3年前。目にしたのは最近。そして触れたのは竹細工でカエルのストラップを作った時です。同時に活動も知りました。

私は田畑の土いじり、歩きにくい道、雑草の生い茂った中に行くことの出来ない人なんです。

4年前から裏庭できゅうりとトマト作りに興味を持ち、収穫の喜びを知りました。良い時も全くダメな年もあり、本では理解が難しく、教えて貰える人も無く……。でも捨てきれず答えを探していた時、お友達に誘いを受けました。

体験の日、求めているのはこれだ!と、すぐ入会を決めました。雑草も区別が付きません。農作業の正しい工程が解り、土の温もり、柔らかさを知った時幸せを感じ、この時に感謝しています。会員皆様方の暖かいお気持ちもあるからだと思えます。 よろしくお願ひ致します。



平成28年・6月度幹事会報告

日時:平成28年5月31日(火)17時~20時00分

場所:奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者:顧問・幹事21名(欠席2名)

議事:

I. 会長挨拶(新任挨拶と共に下記説明があった。)

新組織体制、関連団体相関図説明。柱に広報、クラブ活動追加。新たにアドバイザーを設ける。

II. 事務局報告(下記報告があった。)

①会員数152名(5月31日付名簿を既に配布。)

②熊本震災義援金12万円朝日新聞奈良総局持参。

III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 平成28年度顧問・幹事役割分担、ならやまプロジェクト推進・サポート体制、アドバイザー担当決定。(次回会報に同封し資料配布予定)

2. 3ヶ月スケジュール、当月スケジュール確認
次回より幹事会開催を前月最終週火曜午後2時からに変更。(その他予定詳細は配布資料参照)

3. ならやまプロジェクト関係:ならやま委員長、各グループリーダーより報告並びに計画説明。
ゴミ収集は奈良市アダプトプロジェクトにて対応。(定期的なゴミ回収、清掃具の助成がある。)

4. 活動報告と予告:月例研修会、自然教室、歴史文芸クラブ。事務局より通常総会報告。(会報参照)

5. GGプロジェクト:下記開催イベント担当決定

7月23日:下村、永井、岡崎、各幹事

8月20日:中井、竹本、上西、各幹事

6. 各種助成:事務局よりFGF(富士フィルム)、奈良市アダプトプロジェクト、ならコープ申請状況説明。阿部顧問より経団連助成進捗状況説明。

7. その他:山もり・てんこ森(7月18日)、ニュータウンフェスタ(2017年2月)説明。参加予定。

IV. 広報関係:ネイチャーなら7月号編集内容確認
天気予報降水確率情報として気象庁URL記載。

V. 周年行事:キャッチフレーズは「15年 活かして拓く 夢・未来」、ロゴはC案に決定。

15周年記念誌編集委員会より進捗状況説明。

次回幹事会は6月28日(火)午後2時中部公民館
以上

◆ 申し合わせ ◆

* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

奈良県北部の降水確率は次のURLでも確認可能です。
(<http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html>)

* 臨時活動日を月曜日にする事があります。

(事前に担当役員から連絡します。)



◆ ニホニウム「Nh」113

国際組織「IUPAC」が、理化学研究所が合成した113番目元素の、名称案「ニホニウム」、元素記号案「Nh」を発表した。

理科の勉強で元素の周期表を覚えた記憶があると思います。(スイヘイリーベホカノフネ・・・)

現在確認されている元素は118番までで、発見国は欧州、米国、露国に占められていましたが、日本の自然科学研究にとって画期的な事です。

Nhは30番の亜鉛と83番のビスマスを高速で衝突させ核融合して作られるが、寿命は短く0.002秒しかない。

若者の理科離れが危惧されているが、この快挙が何かの切っ掛けになればと願っている。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第174号

発行:奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表:坂東久平